

## 事務所訪問

税理士業界の

## 鳥山会計事務所

所長 鳥山昌則 税理士

&lt;事務所概要&gt;

事務所所在地 埼玉・志木市  
税理士登録 昭和31年  
事務所開業 平成元年

鳥山昌則税理士がゼロから立ち上げた会計事務所は、いまでは顧問先が500件を超えるまでになった。税務調査への対応など、納税者の気持ちをくみ取った事務所経営を続けてきたことで、多くの顧問先から信頼を獲得。顧問先の口コミなどによって新規顧客を着々と増やしている。



鳥山税理士は、そば屋で住み込みをしながら税理士試験の受験生時代を過ごした。開店準備やそばの盛り付け、井洗いなどで毎日7時間体を動かして終わると、勉強に集中。その結果、20歳からの2年半で、法人税法と所得税法、相続税法を含む5科目に合格した。

その後、会計事務所での修業時代を経て、社会経験を積むためにアパレル会社の経理部長として勤務。すると、会社が多額の赤字や売掛金の不渡りを抱えていることが分かった。当時はてんやわんやの状態だったが、いまと違って「生きた経営を知る良い機会だった」と認識。実務上の問題点や経営の苦しみなどを自ら体験したことで、現在提供している価値の高い経営コンサルティングにつながっている。

事務所を立ち上げたときは、それまで積み重ねてきた経験以外に何も後ろ盾がなかった。だが、現在はスタッフ約20人、顧問先数も500を超えるようになる。ゼロから歩んできた道のりの中で、たくさんのお客様の信頼を勝ち取ってきた。そんな事務所のクワリのひとつが、税務調査への対応だ。たとえ適正な処理をしているつもりでも、税務調査のことが常に頭の片隅に浮かんでしまう経営者も多い。そんなとき、税務調査のサポートをうたう同氏がバフクにしていることだ。顧問先の心的負担の軽減に役立っているのだ。多くの税務調査に立ち会う中で、自己流の税務調査対応ノウハウやネットワークを確立してきた。顧問先から「鳥山税理士のニックネーム」をもらった。「事務所ホームページや口コミで、鳥山税理士」のことが広まり、税務調査が決まってくる電話が相次いでくる。経営者も増えた。ただ、そのような不適切な処理をしている方も少なくありません。わたしとしては、できる限り税務負担が軽くなるようにアドバイスや交渉をする。共済、経営や納税の考え方を改めてもらって優良な経営者、クリーンな会社になるように

## 税務調査を徹底サポート 地元で人気の「闘う税理士」

「税務調査を受ける側の気持ち」がそれまで以上に身に染み分けられるようになった」といって、ひとりですべてを経営することの危うさも痛感した。仮に相当な落ち度が発覚しても、税理士業務停止処分については、たとえ自身が大病を患ってしまってもケースでも懸念される問題だった。税理士に聞いてもらいたいことを決めた。「すでにたくさんのお客様や職員を抱えていたのだから、税理士一人業務から脱却するのは運悪くたくらいかもしれない」と苦み。後継者不足に頭を悩ませる所長は多いが、同氏はそうしな心配をほとんど持っていない。現在20代前半の息子が事務所の後継者候補として着実に歩んでいるからだ。同氏の息子は、高校2年生で簿記1級に合格後、現役高校生のまま税理士試験の「簿記論」「財務諸表論」を突破した。サラブレッド。当時、新聞にも取り上げられて話題となった。近いうち、本格的に会計業界へ足を踏み込むそう

だ。ただ、事務所を継がせるといっても、すぐに自分の事務所で働いてもらうつもりはない。10年ほどはほかの場所で、仕事と向き合わせる方針だ。「監査法人3年、コンサルティンク会社で3年、大規模税理士法人で3年程度の修業。それから事務所へ帰ってくるのが理想ですね。現在、10年後の事務所を見据え、基盤強化に注力しているところだ。できるだけ早い段階で「顧問先1千件」への到達を目指している。

同氏は、会計事務所もサビサビ業であるということに意識している。たとえば、顧問先に携帯電話の番号を伝え、いつでも連絡を取れるようにするなど、経営者が相談しやすい環境づくりに配慮。事務所が大きくなったいまも、そして将来的にもそうした心がけを欠かすつもりはない。

顧問先の間で同氏は、人情派。としても知られる。行きつけの店で定期的にギョーザの弾き語りをする。人柄を表す活動といえる。フォークソングを中心とした持ち歌の中で、庶民が持つ普遍的な気持ちを代弁する。税理士業界においても、下積み時代の自分を忘れることなから、これからも業務を続けていく。



鳥山昌則税理士が立ち上げた事務所は、いまでは顧問先が500件を超えるまでになった。